

編集者のことば

本号は、本研究所のプロジェクト研究である「大都市の環境と地域社会に関する総合的研究」の一環としてまとめられた論文9篇から構成した。

鶴野公郎「総合都市研究のためのデータベース」は、都市を重要視する新しい視点から学問分野をこえて、共通の情報システムとしての都市の地域的分析をサポートするデータベースの構築例を示したものである。

浅見泰司「円形と長方形—住宅や部屋の形状の決定要因—」は、住宅や部屋の平面形状を選択した合理的な理由を追求して、その最適化問題を考察したものである。

小森谷祥明他「セントログラフィによる東京大都市圏の市区間人口移動パターンの分析」は、セントログラフィ（標準偏差楕円）の方法を用い、集計された東京大都市圏の人口移動流（昭和55年）の空間的パターンを分析し、区部からの人口、流出パターンにセクター状の偏りがみられることを明らかにした。

市原茂他「町並みの景観評価に及ぼす色彩の影響について（Ⅱ）」は、56号掲載論文に引続き、コンピューター処理の写真映像をSD法によって評価させる方法により、一つの建物とそれを取り巻く周囲への建物群の色彩も統制して景観評価を行い、不調和感を感じ始める外壁の彩度の値をそれぞれの色彩条件ごとに明らかにした。

田中平八「青年期における自己制御（self-regulation）の場についての環境心理学的研究」は、学部学生を対象としたアンケート方式により、彼等が求める好む場所を状況的・感情的脈絡のなかで語らせることで、自己制御の場の過程を分析し、それが感情を統制し、自尊心を維持し、自己経験を結合する手段として利用されていることを明らかにした。

星旦二他「東京都区市町における主要死因の現状とその構造」は、都民の健康上問題となっているがん・心臓病および脳卒中による死亡率を1982年から87年にかけての都内55区市町のデータをもとに、地域別にみた特性とその構造分析を試みたものである。

三上岳彦「東京におけるヒートアイランドの時空間構造とその長期変動」は、「東京のヒートアイランド実態観測調査」の結果をもとに、東京のヒートアイランドの時空間構造とその形成要因の考察を行うとともに、気象庁の気温データをもとにヒートアイランドの長期変動特性を明らかにした。

落合正宏「河川敷利用に対する水質の影響」は、1970年代以降多摩川河川敷が水質の汚濁化にともない水流と切り離され、水利使用とは直接関連しない目的に利用されるようになったことに着目し、水質と河川敷の利用方法・利用形態の相互関係について考察したものである。

萩原清子「総合的な都市経済研究」は、都市住民の「欲求の階層性」と安心・安全、快適およびゆとりという目的価値の視点から都市問題を総合的にとらえ、具体的に財政の役割を手掛かりに考察したものである。

1996年 12月 25日

福岡峻治